

空中投下作戦を支える、装備即応中隊 374 LRS: Putting in the hours behind air drop

March 4, 2016

Original text by Airman 1st Class Elizabeth Baker
374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋空軍の中でも数少ない、投下物資の最終チェックおよび取り扱いに注意が必要な物資の監査する認定を受けた部隊である横田基地第374装備即応中隊は、太平洋空軍の作戦において重要な役割を担い、かつ、出動命令が出れば、太平洋軍管轄地域のどこへでも即応できる態勢を整えている。第36空輸中隊の空中投下訓練で、パラシュートとパレットの準備を行うのは、第374装備即応中隊の隊員たちだ。

(写真1)パラシュートの生地を破れを修理する第374装備即応中隊の隊員。物資投下後、地上に着地したパラシュートの付着物の除去、必要に応じた修理、そして畳む作業を行う。パラシュートは、次の必要時にすぐ使えるように手順どおりに畳まれ、バッグへ収納される。



1

(写真2) 富士山の裾野で2機のC-130ハーキュリーズがパレットを投下。第374装備即応中隊は、パレットの組立て、パラシュートを畳む作業を念入りに行い、投下された後は、それを回収し、次に使用するために再び準備をする。

重量のあるパレットは、車両や戦艦などの大型器材を投下する想定に基づいて造られている。



2

(写真3) 着地したパラシュートを回収する第374装備即応中隊のジョシュア・マクドナルド軍曹。パラシュートの重さは最大45キロ。

パラシュートを検品、整備、畳む作業を行う隊員を、リガー(パラシュート整備士)と呼ぶ。専門技術学校の課程を修了した後、3ヶ月半に渡る訓練を受け、リガーとしての経験を積む。



3